

ミャンマー難民緊急救援医療プロジェクト

進捗状況について

(派遣)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1) 1992年3月26日より4月10日 | Dr. K. M.A. Jamil 派遣 |
| 2) 1992年4月5日より現在に至る | 馬庭典隆医師派遣 |
| 3) 1992年4月10日より4月17日 | Dr. Nayeem S.A. 派遣 |
| 4) 1992年4月10日より4月24日 | 津曲兼司医師派遣 |
| 5) 1992年4月10日より5月1日 | 野田信一郎医師派遣 |
| 6) 1992年5月8日より6月12日 | 長谷川昭一医師派遣 |
| 7) 1992年5月23日より6月13日 | 山本秀樹医師派遣 |
| 8) 1992年6月10日より7月20日 | 岩永質隆事務局長補佐派遣 |
| 9) 1992年7月10日より7月24日 | 大野京子広報次長派遣 |
| 10) 1992年7月8日より8月10日 | 藤井美紀子看護婦派遣 |
| 11) 1992年7月27日より8月7日 | 友野順章医師派遣 |
| 12) 1992年7月27日より8月7日 | 友野順章医師同僚医師派遣 |
| 13) 1992年7月29日より8月8日 | 二ノ坂保喜医師派遣 |
| 14) 1992年7月29日より8月8日 | 高山浩史氏派遣 |
| 15) 1992年7月29日より8月8日 | 平元樹氏派遣 |
| 16) 1992年8月1日より9月2日 | 竹本啓一氏派遣 |
| 17) 1992年8月15日より8月19日 | 根岸まゆみ氏派遣 |
| 18) 1992年8月20日より8月25日 | 山元香代子医師派遣 |
| 19) 1992年8月21日より8月28日 | 伊藤通敏医師派遣 |

(経過)

4月10日よりダッカ、チッタゴン及びコクスバザールに事務所開設。バングラデシュ政府ボランティアビューロ局、保健省及び国連難民高等弁務官との話し合いにより13カ所の各キャンプごとの難民に対して医療サービスと衛生健康教育を実施することになった。AMDA 現地医師団との密接な協力関係のもとすでに2キャンプを完了。

(内容)

具体的な保健医療プロジェクトの内容は下記のごとくである。

- 1) 寄生虫駆除プログラム
- 2) 衛生保健教育
- 3) 一般診療
- 4) MOBILE CLINIC

(総括)

私達は日本の唯一のNGOとしてミャンマー難民の救援活動に従事している。寄生虫駆除プログラムは栄養改善及び死亡率の低下に貢献している。衛生保健教育は現地の風俗習慣宗教に合致した独自に開発した教材で効果を上げている。寄生虫駆除の前に一般診療を実施。重症者は後方医療帰還に紹介している。一方、バングラデシュ政府医療チームからは私達の有する高度検査機器が大いに期待されている。MOBILE CLINICは難民キャンプ周辺住民に対して適宜実施されている。

難民問題は未だ解決されず、現地の要望も強いので、私達は1993年6月まで当プロジェクトを継続することを決定した。

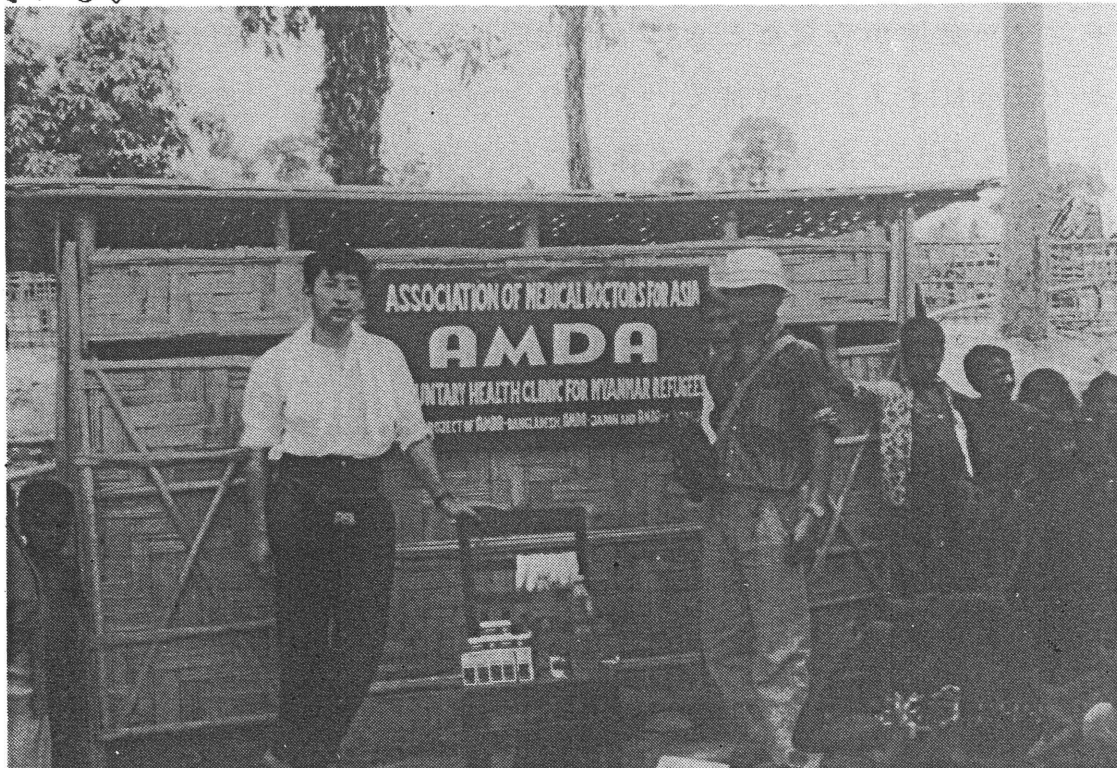
(現地の人々の反響)

日本からのNGOということで現地からは予想を超えて大歓迎されている。チッタゴン医科大学生の当プロジェクト参加もあり、ダッカにある現地医科大学から共同プロジェクトの提案もきている。難民キャンプにおける政府医療チームとの提携も前向きに考慮中である。

現地医師団の士気も高くニューズレターが発行され現地NGOに配付されて私達の存在及び活動が注目されている。

1993年3月には東京大学医学部留学中のDr. Nayeem他2名の医師がバングラデシュに帰国予定。現地体制の強化にもとづくプロジェクトの拡大が期待される。

特筆すべきはフィールドダイレクターであるラザック氏の存在である。ダッカ生まれでチッタゴン大学卒業でDr. Nayeemの実弟である。現地医師団のローテーションと日本からの派遣者の受け入れにと大車輪の活躍をしている。



野田信一郎医師とラザック氏